

## 2020 年度事業 進捗報告書（実行団体）

- 提出日 : 2022年 10月 7日
- 事業名 : 地域の担い手育成事業～うらほろスタイル・イニシアチブ
- 資金分配団体 : 認定 NPO 法人 北海道 NPO ファンド
- 実行団体 : 一般社団法人 十勝うらほろ楽舎

### 1 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
町内で担い手を育成するためのプログラムやプロジェクトが創出され、それらに参加する子ども・若者の数が増加する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中高生等対象のプログラムやプロジェクトの実施数</li> <li>・プログラムやプロジェクトの参加者数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（実施数）延べ 30 回</li> <li>・（参加者数）延べ 150 人</li> </ul>	2023 年 3 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラム実施数 40 回、参加者延べ 271 人。</li> <li>・本プログラムへの参加をきっかけに、継続的活動につながる中高生もみられる。</li> <li>・この他、他事業の実施支援も行っている。</li> </ul>	1
町を出た学生・若者に対するメディアやプラットフォームが創出され、それらに関わる学生・若者の数が増加する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町を出た学生・若者に対するメディアやプラットフォームの構築</li> <li>・メディアやプラットフォームに関わる、町外在住の学生・若者の数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアやプラットフォームが構築されている</li> <li>・延べ 50 人</li> </ul>	2023 年 3 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>メディアやプラットフォームの構築を当事者世代とともに構築することを視野に入れつつ、以下を実施した。</li> <li>・若者の交流イベント・ワークショップの実施（計 3 回、参加者数延べ 49 人）。実施にあたり、19 歳～22 歳の町出身者 6 名が企画・運営側として関わっている。</li> </ul>	2

				・2022年10月にInstagramを開設予定であり、現在準備中。	
本事業に関わる主体（個人・組織）が増加し、より強固な協働体制が構築されている	・本事業の取組みに関わる主体（個人・組織）の数	約100人、10組織	2023年3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年10月に、本事業等を通じて目指す子ども・若者の姿及びそのために必要な経験・環境を考えるワークショップを実施。</li> <li>・各プログラム等の企画・実施にあたり、地域の大人の関わりを創出（延べ143人、18組織）</li> <li>・持続可能な体制構築の一環として、超出身者を採用</li> </ul>	1

\*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

## ② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
企画等開催時の感染対策実施、感染状況に応じたオンライン実施への切り替え等

## ③ 広報（※任意）

1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）

2022年10月にInstagramを開設予定。

2.広報制作物等

各企画のチラシの作成（いずれも、町内の学校（先生・生徒・保護者）や、各施設（公民館、駅など）などに配布。

3.報告書等

## 2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

### 評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
外部	ワークシート及びインタビューの設計・分析	丹間 康仁	千葉大学教育学部 准教授
内部	全体とりまとめ	上田 真弓	十勝うらほろ楽舎 理事・教育室長
内部	調査等の補助	古賀 詠風	十勝うらほろ楽舎 スタッフ
内部	調査等の補助	続 麻知子	浦幌町地域起こし協力隊

### A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

#### ① 短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
中学生	・町に関わりたいという意識 ・自ら進んで行動する意識	向上	2023.3	地域との関わりを必要と考える生徒の割合の増加の他、その理由に関しても自身の行動や進路などとの関連で具体的に述べるようになる傾向などが認められる。（ワークシートより）
高校生	同上	向上	2023.3	これまでの町での経験・関わりを、自身の人生や、浦幌町または現在通学する町・コミュニティでの関わりに生かそうとしている高校生が見られる。（インタビューより）
若者	・「地域への愛着」意識 ・ふるさとに関わりたいという意識	向上	2023.3	これまでの町での経験・関わりをもとに、恩返しできたら、いつか浦幌町に関われたら、などの思いを持って生活している若者が見られる。（インタビューより）
大人	次世代への当事者意識	向上	2023.3	子供・若者のチャレンジを促すためには大人自身がチャレンジすることの必要性や、若者の町への関わり・貢献

				を短期間で求めるよりも、彼らの将来につながる関わりをしていく必要性について確認された。（ワークショップ及び関係者ミーティングより）
--	--	--	--	---



2 アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」 **(※任意)**

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい と自己評価する	

## B) 事業の改善状況の評価

### 1 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
課題の分析	事業の対象グループはどのような問題・関心・期待・懸念を持っているか	<p>高校進学直後のインタビューなどにより、町外に出た際の対象グループの問題・関心などが確認された。</p> <p>なお、中学生についても、ワークシートなどにより認識・行動に係る細やかな実態把握がされた。</p>	<p>高校生については、中学生までの町での経験・関わりに意義を見出しつつ、町外進学にあたり、そこでの新たな人間関係づくりや自身の将来に向けた思いや活動が重きを占めるようになることが確認された。</p> <p>なお、中学生についても、地域との関わりが学校教育課程で担保されているなかでも認識や行動に個人差があること、苦手なことや関心が持てないことに「勉強」が数多く挙げられることなどが改めて確認された。</p>
実施状況の適切性	活動は計画どおり実施されたか。実施できなかった場合、改善の努力や工夫はされているか。	<p>当初計画通りの実施ではないものの、事業期間の変更も含め適切な計画修正を図っていることを確認した。</p>	<p>新型コロナウイルス感染拡大状況や体制の変更（本年4月に出身者の採用が実現）を受け、当事者の主体性をより一層いかした事業展開を図るなど、事業期間内のアウトカム（短期アウトカム）と中長期的なアウトカムとの接続を円滑にするため、一部事業を後ろ倒しするなどの修正を行っている。</p>
実施をととした活動の改善、知見の共有	より感度のよいアウトカムの指標がないか	<p>1. 中高生・若者の認識や行動の変化に関わる実態把握が不十分であり、実態把握自体が重要な取組であると確認された。</p> <p>2. 上記実態把握を踏まえ、短期アウトカム・指標・目標状</p>	<p>事業開始後に行った実態把握に基づき、事業開始時のアウトカム・指標などの設定について、以下のような改善必要性が確認された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生と、町外に進学する高校生とは、生活環境・実態が大きく異なるため、アウトカム・指標などを分けて設定したほうがよい</li> <li>・若者について、出身者の重要性は変わらないものの、出身以外の若者の関わりも視野に入れて取り組んだほうが、中長期アウトカムにも接近しやすい</li> </ul>

		態について、具体化・精緻化を図る必要があると確認された。	
組織基盤強化・環境整備	今後、事業実施において関係構築・発展が必要となるのはどのような人や組織か、またどのように協働体制を構築していくか。	中学卒業後、一旦町を離れる若者のニーズに対応できる柔軟な受け皿機能が重要であると確認された。	インタビューデータからも、また関係者協議においても、高校生・若者に、事業期間内での町との関わりを多く求めることや提供することに拘泥せず、彼らが必要なときに接触できる・相談できるようになる土壌形成やつながり・環境形成の重要性が明らかになった。

## 2 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

- 中高生・若者の認識や行動の変化に関わる実態把握自体が不十分であったところ、当該実態把握に着手することができた
- 多様な機会を用意することで、一企画への参画を契機に、継続的な活動や人とのつながりに接続していく中高生の事例も見られた
- 学校関係者や保護者などから、教職員とは異なる立ち位置で子供たちとつながり実情を把握することや、地域・社会とつなぐことについて、新たな相談や期待も寄せられることも増えている

## 3 事前評価時には想定していなかった成果

- 2022年4月時点での町出身者の採用と、当該担当者による町外出身者も含んだ若者コミュニティ醸成への着手



## 4 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている

- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている</p> <p>と自己評価する</p>	<p>これまで、特にアウトプットベースでは概ね計画どおり事業を推進している。また、これまで十分になされていなかった中高生・若者の認識・行動の変化に関する実態把握に着手することができた。</p> <p>他方で、上記実態把握により、中長期アウトカムの実現に向けて、短期アウトカムの具体化・精緻化や活動内容を含め、事業計画を改善する必要性と改善の方向性が確認された。</p>

5 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

<ul style="list-style-type: none"> <li>● 短期アウトカム・同指標・目標状態の更新</li> <li>● 実態把握自体も含め、事業期間終了後を見据えた持続可能な仕組みづくり</li> </ul>
--

添付資料

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）

